

授業概要

障害児保育Ⅰの内容を踏まえ、そもそも障害とは何であるのかを国際生活機能分類（ICF）の観点から指導する。また、保育の記録や計画、各種専門機関や小学校との連携、保護者支援、個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成など、保育の実践的な内容を学ぶとともに、障害児の保育関連施策について指導する。

授業計画

第1回	障害児保育Ⅱの概要
第2回	障害児・者に対する意識など
第3回	そもそも障害とは何か（国際生活機能分類（ICF）の理解）
第4回	障害児保育はどのようにして行われてきたのか
第5回	障害児保育の対象と理念（ノーマライゼーションなど）
第6回	障害児保育を支える記録と評価
第7回	個々の発達を促す生活や遊びの環境
第8回	子ども同士のかかわりと育ち合い
第9回	職員間の協働
第10回	保護者や家族に対する理解と支援（1）：障害受容など
第11回	保護者や家族に対する理解と支援（2）：保護者との連携など
第12回	地域の専門機関等との連携及び個別の支援計画の作成
第13回	小学校等との連携
第14回	障害児保育にかかわる現状と課題
第15回	まとめ
第16回	定期試験

到達目標

障害の概念を理解する。保育の記録や計画の立案、関係機関との連携など、障害児の保育に関する実践的な内容や保護者への支援の在り方を理解する。また、個々の障害児の発達援助について障害児保育の実情と照らし合わせながら個別的支援および集団での保育の在り方を習得する。

履修上の注意

授業には主体的に参加することが重要です。その一方で、主体的に参加しようとする気持ちがありながらも、授業の進め方やディスカッションへの苦手さのために、上手く取り組めない場合は、対応を検討しますので、教員に相談してください。やむを得ず授業を欠席する場合、授業資料は出席する受講者にとっておいてもらうようにしてください。遅刻・欠席をした場合、出席した受講者から授業内容を確認しておいてください。

予習・復習

ディスカッションなどを行うにあたり、障害児保育に関する基本的な知識についての予習・復習を授業外で行う必要があります。そのための課題については授業内で案内します。

評価方法

課題などを含めた授業への主体的な参加 40%、定期試験 60%によって評価する。

テキスト

増南太志・山本智子ほか「よくわかる障害児保育」大学図書出版